

佐賀県研究成果情報（作成 2020 年 3 月）

[情報名] タマネギの植付時期とべと病一次感染発病との関係

[要約] タマネギを 11 月下旬以降 2 月中旬まで植え付けた場合、植付時期が遅くなるほど、べと病の一次感染発病は少なくなり、1 月中旬以降の植え付けでは極めて少ない。

[キーワード] タマネギ、べと病、一次感染発病抑制、植付時期

[担当] 上場営農センター・研究部・畜産・果樹研究担当

[連絡先] (0955)82-1930・uwabaeinouse@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 上場営農専門部会

[専門] 病害虫

[背景・ねらい]

植付時期と一次感染による全身発病株の発生との関係を解析し、植付時期の移動による発病抑制程度を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 12 月上旬植え付けでは一次感染発病株が多発する（図 1）。12 月中旬植え付けでは年次によって発生が大きく異なる（図 1）。気温が高い場合には 12 月上旬植え付けと同程度に多発し、低い場合には少発生にとどまる。
2. 1 月上旬植え付けでは一次感染発病株の発生は 12 月植え付けに比べて大幅に少なくなる（図 1）が、12 月中旬植え付けと同様に気温の影響が認められ（図 2）、暖冬年に比べて寒冬年で発生は極めて少ない。
3. 1 月中旬以降の植え付けになると、温暖年および寒冷年ともに一次感染発病株の発生は極めて少ない（図 1）。
4. 一次感染発病株の発生は無マルチ栽培よりもマルチ栽培で少ない傾向にある（図 1）。
5. 無マルチ栽培では 12 月中旬植え付けであれば収量の低下は少ない。マルチ栽培では 1 月中旬に植え付けても 12 月中旬植え付けと同等の収量である（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 前年、べと病が多発した圃場に適用できる。べと病の発生リスクが高いと予想される圃場では植付時期をできるだけ遅くする。
2. 1 月下旬まで植え付けが遅れてもマルチ栽培によって 12 月下旬植え付けの無マルチ栽培と同程度の収量が確保される（「上場営農センター；平成 25 年度佐賀県研究成果情報：冬どりタマネギ後作の中晩生タマネギにおけるマルチ被覆による収量確保」を参照）。

[具体的なデータ]

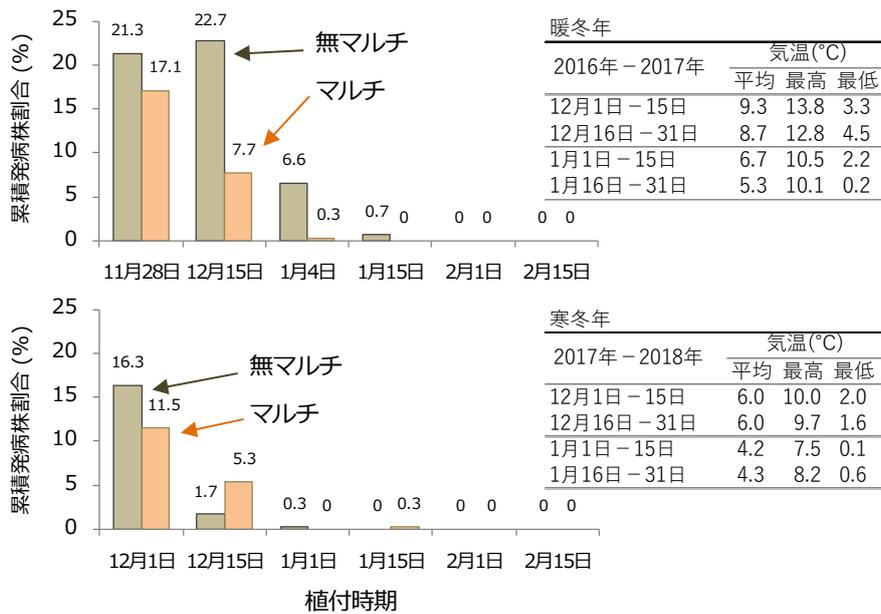


図1 植付時期と一次感染発病株発生との関係

注) 上段：2017年作，下段：2018年作，11月下旬から2月中旬まで約2週間間隔でターザン苗を植え付け，経時的に一次感染発病株の発生状況を調査，図に示すデータは4月上旬の調査結果

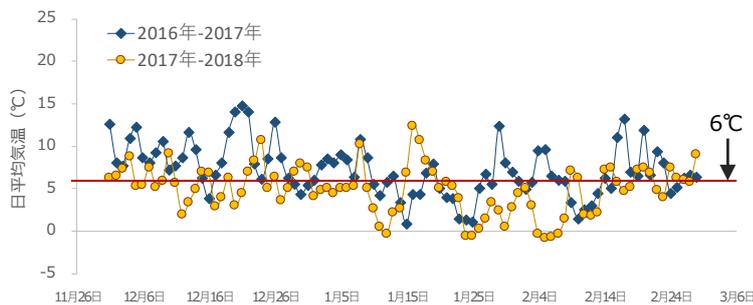


図2 感染期間と推定される時期の日平均気温の推移

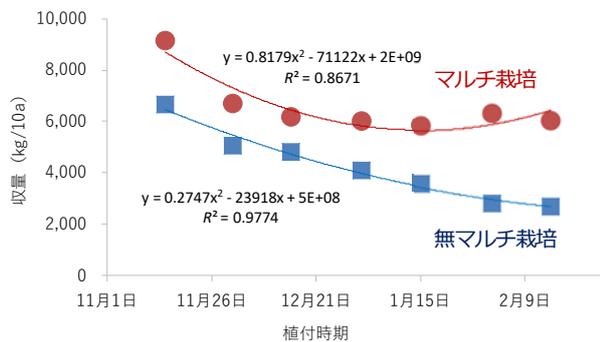


図3 植付時期・栽培形態と収量との関係 (2019年作)

[その他]

研究課題名：西日本のタマネギ産地に深刻な被害を及ぼしているべと病の防除技術の開発と普及
 予算区分：国庫 革新的技術開発・緊急展開事業 (うち 地域戦略プロジェクト)

研究期間：2016～2019年度

研究担当者：正司和之，田代暢哉，松尾洋一

発表論文等：平成28年度日本植物病理学会大会で口頭発表